

# 四半期報告書

(第96期第1四半期)

**杉本商事株式会社**



---

# 四 半 期 報 告 書

---

- 1 本書は四半期報告書を金融商品取引法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用し提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 2 本書には、上記の方法により提出した四半期報告書に添付された四半期レビュー報告書及び上記の四半期報告書と同時に提出した確認書を末尾に綴じ込んでおります。

# 目 次

	頁
【表紙】 .....	1
第一部 【企業情報】 .....	2
第1 【企業の概況】 .....	2
1 【主要な経営指標等の推移】 .....	2
2 【事業の内容】 .....	2
第2 【事業の状況】 .....	3
1 【事業等のリスク】 .....	3
2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】 .....	3
3 【経営上の重要な契約等】 .....	4
第3 【提出会社の状況】 .....	5
1 【株式等の状況】 .....	5
2 【役員の状況】 .....	6
第4 【経理の状況】 .....	7
1 【四半期連結財務諸表】 .....	8
2 【その他】 .....	14
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】 .....	14

四半期レビュー報告書

確認書

## 【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 近畿財務局長

【提出日】 2020年8月11日

【四半期会計期間】 第96期第1四半期(自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)

【会社名】 杉本商事株式会社

【英訳名】 SUGIMOTO & CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長執行役員 杉 本 正 広

【本店の所在の場所】 大阪市西区立売堀5丁目7番27号

【電話番号】 06(6538)2661(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役専務執行役員管理本部長 阪 口 尚 作

【最寄りの連絡場所】 大阪市西区立売堀5丁目7番27号

【電話番号】 06(6538)2661(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役専務執行役員管理本部長 阪 口 尚 作

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第95期 第1四半期連結 累計期間	第96期 第1四半期連結 累計期間	第95期
会計期間	自 2019年4月1日 至 2019年6月30日	自 2020年4月1日 至 2020年6月30日	自 2019年4月1日 至 2020年3月31日
売上高 (千円)	10,626,466	9,111,453	43,890,514
経常利益 (千円)	525,820	423,462	2,929,515
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (千円)	331,797	283,847	1,894,705
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	346,353	473,704	1,851,850
純資産額 (千円)	30,440,025	31,144,581	31,093,163
総資産額 (千円)	36,171,411	35,528,287	36,535,552
1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	30.17	26.89	177.01
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	—	—	—
自己資本比率 (%)	84.2	87.7	85.1

- (注) 1 当社は、四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社の企業集団にて営まれている事業の内容に重要な変更はありません。また、主要な関係会社についても異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、経営者が連結会社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があるとして認識している主要なリスクの発生は又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

### 2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

#### (1) 経営成績の分析

当第1四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、新型コロナウイルス感染拡大による影響により、輸出や生産が急減しており、一部業種を除いて製造業、非製造業を問わず幅広い業種でリーマン・ショック以来の極めて厳しい状況に置かれました。業種別では世界的に需要が低迷する自動車関連業種の業績悪化の影響が大きく、一方設備投資に関しても、中止や先送りの動きが顕著となりました。

このような状況のもと当社グループは、創業100周年(2021年)に向けた第二次中期経営計画『Sincerity to 100』の基本的な考え方である「対面営業、課題解決型の提案営業の充実・拡大を図ると同時に顧客の業務効率化ニーズにも対応できるインフラを整備・活用する。」との方針は堅持しつつ、従業員及び顧客の健康確保を最優先命題に感染リスク対策に万全を尽くしながら、新規出店及び新規顧客獲得、顧客深耕、新規商品投入及び重点取扱商品拡大等の重点施策を、営業活動に工夫を重ねて推進し、企業価値の一層の向上に取り組んでまいりました。

その結果、当第1四半期連結累計期間は、売上高91億11百万円（前年同期比14.3%減）、経常利益4億23百万円（前年同期比19.5%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益2億83百万円（前年同期比14.5%減）となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

#### （東部）

東部では、新型コロナウイルスの影響による外出自粛によって生まれた“巣ごもり消費”の恩恵を受けた食品業界や、それに関連する紙業業界や化学業界は堅調に推移いたしました。一方、以前より不調であった自動車業界とそれに関連する製鉄業界などでは、工場稼働率も低迷、設備投資も先延ばしとなり全体的に低調に推移いたしました。

この結果、当セグメントの売上高は21億62百万円（前年同期比21.6%減）、セグメント利益75百万円（前年同期比34.8%減）となりました。

#### （中部）

中部では、新型コロナウイルス感染症の拡大、世界経済の下振れ等もあり、主要業種である自動車業界の生産調整をはじめ、工作機械業界、鉄鋼業界、航空機業界でも同様に、生産活動並びに、輸出量が減少しました。一部の半導体、電子業界では好調さも伺えますが、設備投資も鈍化しており全体的に低調に推移いたしました。

この結果、当セグメントの売上高は24億90百万円（前年同期比15.9%減）、セグメント利益は76百万円（前年同期比30.4%減）となりました。

(西部)

西部では、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、国内製造業における工場稼働率低下など、景気減速が顕著となりました。鉄鋼関連をはじめとして景気の先行き不透明感を受けた設備投資の抑制や先送りが見られ、総じて低調に推移いたしました。

この結果、当セグメントの売上高は42億46百万円（前年同期比8.8%減）、セグメント利益は1億75百万円（前年同期比10.4%減）となりました。

(海外)

海外では、対米ドルの為替相場は比較的安定していましたが、主力国の中国、韓国などの東南アジア各国の新型コロナウイルス感染拡大により経済活動が制限され、さらに厳しい状況となりました。海外渡航禁止制限により主力顧客との往来ができない中で、WEB通信などを積極的に取り入れて、積極的な情報交換に努めましたが、輸出全体でみると減速傾向が強まり、低調に推移いたしました。

この結果、当セグメントの売上高は2億11百万円（前年同期比14.9%減）、セグメント利益は15百万円（前年同期比4.9%増）となりました。

(2) 財政状態の分析

当第1四半期連結会計期間末における総資産は355億28百万円となり、前連結会計年度末に比べ10億7百万円減少しております。これは主に現金及び預金が6億61百万円、商品が2億26百万円、投資有価証券が2億77百万円増加する一方、受取手形及び売掛金が19億55百万円減少したためであります。負債は43億83百万円となり前連結会計年度末に比べ10億58百万円減少しております。これは主に預り金が1億38百万円、繰延税金負債が1億3百万円増加する一方、買掛金が7億56百万円、未払法人税等が3億63百万円、未払費用が2億8百万円減少したためであります。また、純資産は311億44百万円となり前連結会計年度末に比べ51百万円増加しております。これは主に利益剰余金が1億38百万円減少する一方、その他有価証券評価差額金が1億90百万円増加したためであります。

(3) 研究開発活動

該当事項はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。



### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### ① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	28,000,000
計	28,000,000

###### ② 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間 末現在発行数(株) (2020年6月30日)	提出日現在 発行数(株) (2020年8月11日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	11,399,237	11,399,237	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は100株で あります。
計	11,399,237	11,399,237	—	—

##### (2) 【新株予約権等の状況】

###### ① 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### ② 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2020年6月30日	—	11,399	—	2,597,406	—	2,513,808

##### (5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

2020年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 842,000	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 10,545,200	105,452	—
単元未満株式	普通株式 12,037	—	1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	11,399,237	—	—
総株主の議決権	—	105,452	—

(注) 1 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式 77株含まれております。

2 当第1四半期会計期間末日現在の「発行済株式」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(2020年3月31日)に基づく株主名簿による記載をしております。

② 【自己株式等】

2020年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合 (%)
(自己保有株式) 杉本商事株式会社	大阪市西区立売堀5丁目7番27号	842,000	—	842,000	7.4
計	—	842,000	—	842,000	7.4

2 【役員状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（2007年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(2020年4月1日から2020年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(2020年4月1日から2020年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

# 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	7,756,118	8,417,397
受取手形及び売掛金	11,059,043	9,104,010
電子記録債権	3,655,426	3,573,952
商品	1,795,478	2,022,125
その他	135,840	159,149
貸倒引当金	△1,631	△1,529
流動資産合計	24,400,275	23,275,106
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	2,454,018	2,416,347
構築物（純額）	24,995	23,603
車両運搬具（純額）	79,307	78,441
工具、器具及び備品（純額）	170,533	153,066
土地	5,380,044	5,380,044
建設仮勘定	103,780	103,780
有形固定資産合計	8,212,679	8,155,283
無形固定資産		
電話加入権	38,894	38,894
ソフトウェア	104,838	86,653
のれん	528,045	513,644
ソフトウェア仮勘定	12,650	12,650
無形固定資産合計	684,428	651,842
投資その他の資産		
投資有価証券	2,505,643	2,782,789
出資金	14,890	14,890
退職給付に係る資産	326,291	332,166
差入保証金	243,286	236,538
繰延税金資産	74,037	—
その他	89,886	89,302
貸倒引当金	△15,866	△9,631
投資その他の資産合計	3,238,168	3,446,054
固定資産合計	12,135,276	12,253,181
資産合計	36,535,552	35,528,287

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	3,583,926	2,827,842
未払金	225,047	174,026
未払費用	479,975	271,822
未払法人税等	427,250	63,789
未払消費税等	62,501	108,253
その他	107,916	274,958
流動負債合計	4,886,616	3,720,691
固定負債		
長期未払金	260,685	260,685
長期預り保証金	151,492	153,042
退職給付に係る負債	143,402	145,462
繰延税金負債	—	103,664
その他	192	160
固定負債合計	555,772	663,014
負債合計	5,442,389	4,383,706
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	2,597,406	2,597,406
資本剰余金	2,529,295	2,529,295
利益剰余金	26,719,840	26,581,402
自己株式	△1,401,204	△1,401,204
株主資本合計	30,445,338	30,306,900
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	641,340	831,563
退職給付に係る調整累計額	6,484	6,117
その他の包括利益累計額合計	647,824	837,680
純資産合計	31,093,163	31,144,581
負債純資産合計	36,535,552	35,528,287

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年6月30日)
売上高	10,626,466	9,111,453
売上原価	8,691,654	7,373,827
売上総利益	1,934,812	1,737,626
販売費及び一般管理費	1,497,407	1,393,967
営業利益	437,404	343,658
営業外収益		
受取利息	290	315
受取配当金	4,154	2,849
仕入割引	80,546	67,674
不動産賃貸料	24,291	23,106
その他	4,680	3,402
営業外収益合計	113,963	97,348
営業外費用		
支払利息	341	328
売上割引	18,574	16,765
その他	6,632	450
営業外費用合計	25,548	17,544
経常利益	525,820	423,462
特別利益		
固定資産売却益	166	272
特別利益合計	166	272
特別損失		
固定資産除売却損	146	—
会員権評価損	2,940	—
特別損失合計	3,087	—
税金等調整前四半期純利益	522,898	423,735
法人税、住民税及び事業税	101,352	45,819
法人税等調整額	89,749	94,068
法人税等合計	191,101	139,887
四半期純利益	331,797	283,847
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	331,797	283,847

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)
四半期純利益	331,797	283,847
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	13,937	190,223
退職給付に係る調整額	619	△367
その他の包括利益合計	14,556	189,856
四半期包括利益	346,353	473,704
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	346,353	473,704
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(会計方針の変更等)

該当事項はありません。

(追加情報)

当第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)
前連結会計年度の有価証券報告書の(追加情報)に記載した新型コロナウイルス感染症の今後の広がり方や収束時期等を含む仮定について重要な変更はありません。

(四半期連結貸借対照表関係)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)
減価償却費	79,430千円	87,975千円
のれんの償却額	4,800千円	14,401千円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年6月14日 定時株主総会	普通株式	442,296	40	2019年3月31日	2019年6月17日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。



当第1四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2020年6月19日 定時株主総会	普通株式	422,286	40	2020年3月31日	2020年6月22日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日  
後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				合計
	東部	中部	西部	海外	
売上高					
(1)外部顧客への売上高	2,757,562	2,962,799	4,656,980	249,124	10,626,466
(2)セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	2,757,562	2,962,799	4,656,980	249,124	10,626,466
セグメント利益	116,278	110,511	196,154	14,459	437,404

(注) 報告セグメントの利益の金額は、四半期連結損益計算書の営業利益で行っており差額はありません。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				合計
	東部	中部	西部	海外	
売上高					
(1)外部顧客への売上高	2,162,400	2,490,702	4,246,377	211,973	9,111,453
(2)セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	2,162,400	2,490,702	4,246,377	211,973	9,111,453
セグメント利益	75,839	76,955	175,690	15,172	343,658

(注) 報告セグメントの利益の金額は、四半期連結損益計算書の営業利益で行っており差額はありません。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額	30円17銭	26円89銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(千円)	331,797	283,847
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益金額(千円)	331,797	283,847
普通株式の期中平均株式数(千株)	10,996	10,557

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

# 独立監査人の四半期レビュー報告書

2020年8月7日

杉本商事株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

大阪事務所

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 西方 実 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 北岡 宏 仁 印

## 監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている杉本商事株式会社の2020年4月1日から2021年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（2020年4月1日から2020年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（2020年4月1日から2020年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、杉本商事株式会社及び連結子会社の2020年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

## 監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

## 四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。



#### 四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

---

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。  
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。



**【表紙】**

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の8第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	2020年8月11日
【会社名】	杉本商事株式会社
【英訳名】	SUGIMOTO & CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長執行役員 杉 本 正 広
【最高財務責任者の役職氏名】	取締役専務執行役員管理本部長 阪 口 尚 作
【本店の所在の場所】	大阪市西区立売堀5丁目7番27号
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所  (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役社長執行役員杉本正広及び当社最高財務責任者阪口尚作は、当社の第96期第1四半期（自 2020年4月1日 至 2020年6月30日）の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認いたしました。

2 【特記事項】

確認に当たり、特記すべき事項はありません。





